

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1242 号	氏 名	箱山 友祐
論文審査担当者	主 査 竹下 敏一 教授 副 査 駒津 光久 教授 ・ 伊藤 研一 教授		
<p>(論文審査の結果の要旨)</p> <p>口腔カンジダ菌は免疫機能が低下した宿主において増加し、病原性を発揮すると考えられている。そのため、口腔カンジダ菌量の測定は、宿主の免疫状態を評価する指標となる可能性がある。これまでの研究では、口腔カンジダ菌の増加と宿主の免疫状態との関係が報告されているが、口腔カンジダ菌量と宿主の健康状態や症状（発熱、悪寒、下痢を含む）との関係は明らかではない。したがって、本研究では口腔カンジダ菌量と全身状態/症状との関連性を検討して、宿主の健康状態や免疫状態が口腔カンジダ菌量を測定することで推測できるか否かを明らかにすることを目的とした。</p> <p>本研究では、健康人 25 名と殺細胞性化学療法を受けているがん患者 10 名を対象に、口腔うがい液を回収して口腔カンジダ菌量（カンジダマンナン抗原濃度）の測定を行なった。また同時に、全身状態の評価として体温、嘔気/嘔吐、下痢、疼痛、不眠感の有無、加えてがん患者に対しては血液検査で白血球数を調査し、カンジダ菌量との関連を統計学的に分析した。</p> <p>その結果、箱山友祐は、口腔カンジダ菌量の増加と健康人の悪寒の発生、化学療法治療中のがん患者の中等度の発熱（37.5-38.4℃）との間に有意な相関を認め、これらの症状/徴候は宿主の全身状態と関連しており、免疫システムの活性化と関係している可能性を示した。</p> <p>本研究より、健康/免疫状態に関する予測因子として口腔カンジダ菌量の測定が有用となる可能性が示唆された。</p> <p>主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。</p>			